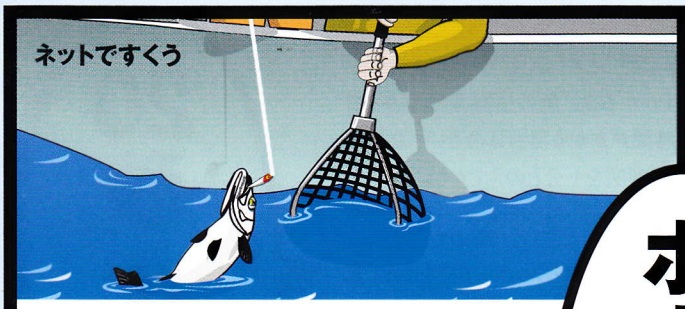
正しいキャッチ&リリースのキーポイント

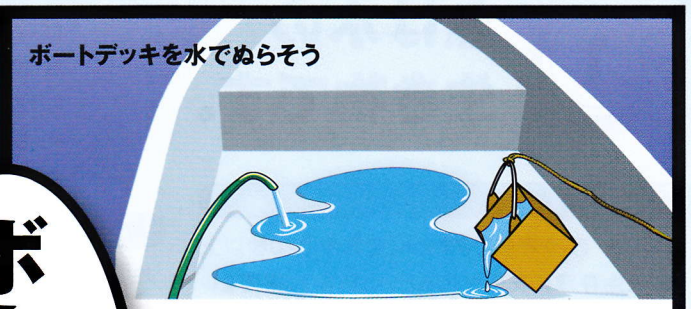
ボートから

ネットですくう



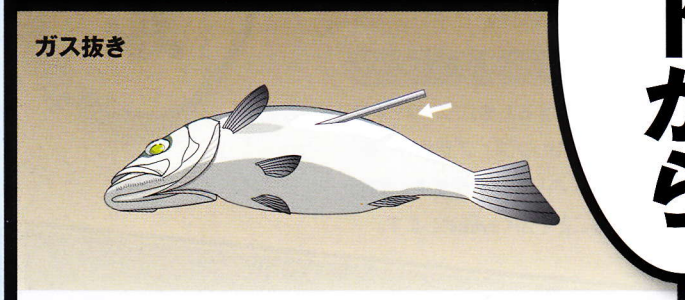
ランディングネットを使います。魚を抜きあげると、どうしても魚がボートデッキに強く放り出されるようになりがちで、魚体にダメージを与えます。(ラバー製のネットがベストです)

ボートデッキを水でぬらそう



ボートデッキに魚を置く場合には、ホースやバケツで十分に水(海なら海水)を撒き、乾燥を防ぎ、ヌメリの破損を防ぎ、また高低温から魚体を守るようにします。

ガス抜き



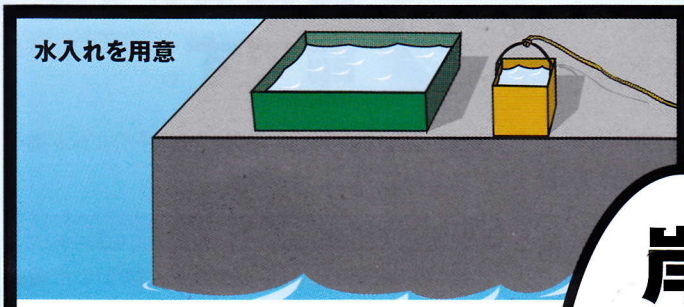
魚は深いところからのファイトや針掛りによるショックなどから、おなかの空気が膨張し、そのままリリースしても浮いてしまいもとの場所に帰っていけない場合があります(泳げる状態の観察で容易に分かります)。その場合は先端がとがったガス抜き用のステンレスパイプを注意深く腹に浅く刺し、腹を軽く押してガスを抜いてからリリースします。

写真撮影

写真は素早く撮るようにします。計測などを先に済ませ、最後の段階で写真撮影します。ここでも20秒ルールを忘れずに適用してください。

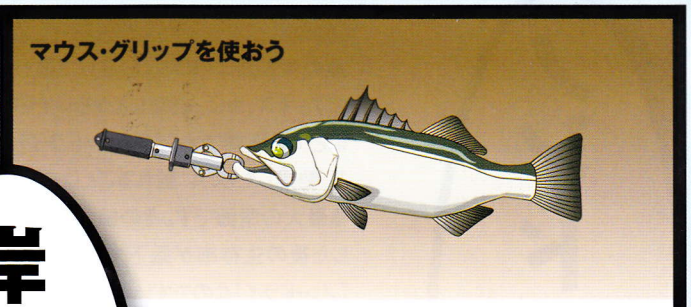
岸(磯)から

水入れを用意



磯の岩、砂浜、防波堤のコンクリートの上に直接魚を置いてはいけません。置いてしまうと魚のヌメリが取れたり、体表に傷が付いてしまいます。釣ったらすぐに新鮮な水の入った水入れに魚を移しましょう。

マウス・グリップを使おう



魚を直接持たずに魚の下唇をつかめるマウス・グリップは、リリースするのにもってこいの道具です。ぜひお使い下さい。

磯ではタイドプールを利用しよう

磯には、潮だまり(タイドプール)がある場合があります。事前に新鮮な潮水であることを確認してから魚をいれてみてください。

魚を傷つけないように!

磯や防波堤では、魚を抜き上げて岩やコンクリートに叩きつけるようなシーンを眼にします。これでは魚が傷ついたり、針傷が大きくなったりで正しいリリースとはいえません。ランディングネットですくう努力を惜しまないことです。

JGFAタグ&リリース魚類保全委員会

入会・お問合せ

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会(JGFA)

Eメール japan@jgfa.or.jp ホームページ http://www.jgfa.or.jp/

その1 魚は水の生き物です。

20秒ルール

なにが20秒?!

魚は水中でしか呼吸できません!空気中で20秒以上たつと生存率に支障が出るという科学的重要なレポートがあります。ですから釣り上げたら20秒以内でリリースを…それ以上時間がかかるときは魚を窒息させないためにいったん水中に戻し呼吸させます。

フックはバーブレスを使おう!

素早くフックをはずせるようにフックはバーブレスを使ってみてください。魚へのダメージを少なくできます。(フックにカエシの付いている場合は、ラジオペンチなどで返しをつぶすようにしてお使い下さい。バーブレスフックと同様の効果が期待できます。)

写真は素早く!

魚を写真に撮るときも20秒ルールを!!時間がかかればかかるほど魚の生存率は下がります。もし時間がかかる場合は魚をいったん水中に戻し、呼吸を十分とのえてからにします。

計測するのも素早く!

魚のサイズを測るにも素早く!20秒ルールを!!長さ、重さを測る場合には、前もってメジャーや、ハカリを用意しておいてください。「ボートのイケス」や「潮だまり」「バッカン=大型バケツ」「ストリンガー」などで魚の呼吸を妨げない用意は最良の方法です。

フック・オフ・ツール(ハリハズシ)を用意!

魚のダメージを最小限に抑えるためにフック・オフ・ツールを!(ハリハズシ、フォーセップス、プライヤー等)これらを使い分ければ素早くハリをはずせます。釣行の際にぜひ持っていかれることを強くお勧めします。

あなたのキャッチ&リリースは間違ってませんか…?

正しいキャッチ&リリースの仕方

その2 魚はヌメリが命です。

ノン・ドライ・ルール

ノン・ドライってなんなの?!

魚の体表面は『ヌメリ(粘液)』で覆われています。キズ、カビ、細菌などから体を守るためにとても重要です。「乾燥=ドライ」すること、乾燥したものに触れることはヌメリの破損につながる最大の原因です。その結果、組織が傷つきリリースした後の生存率が低下することになります。ですから「ノン・ドライ」なのです!

ランディング・ツールを使おう!

魚をキャッチするには「濡らしたランディングネット」「マウスグリップ」などを使いましょう。特に、ラバー(ゴム)製のランディングネットあるいはリリースネットは濡らして使用すれば魚の表面が傷つきにくく、リリースする際には最適なツール(道具)の一つです。

乾いたところに置かないで!

これも「ノン・ドライ」です!…コンクリート、砂地、岩、土など乾いた地面に直接に魚を置くとヌメリが取れ、組織が傷つきリリースした後の生存率が低下することになります。このような場所に魚を置かないように十分気をつけることです。(どうしてものときは「十分に水を撒いて乾燥を阻止」…ですね。)

つかむなら手をぬらそう!

これも「ノン・ドライ」です!…直接つかまないのが理想的ですが、やむをえずつかむ場合は『必ず手をぬらして』からにします。ぎゅっと握らず、やさしく持つことを心がけ、しかも、ヌメリをできる限り取らないようにすることです。

水入れがあるとグッド!

これも「ノン・ドライ」です!…魚を一時、入れておく『水入れ』(「ボートのイケス」「潮だまり」「バッカン=大型バケツ」等)に新鮮な水が十分にいれてあれば、魚をいためず、窒息も防げます。その後の生存率もぐっとアップします。(注意点としては新鮮な水であることが重要です。)ヌメリの破損を防ぎ魚の呼吸を妨げない用意はリリースでの最良の方法です。

JGFAタグ&リリース魚類保全委員会

入会・お問合せ

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会(JGFA)

Eメール japan@jgfa.or.jp ホームページ http://www.jgfa.or.jp/